

榎木館日和

しゅもくかんびより ◆ 第十八号



文化のみち榎木館
Cultural Path Shumokukan

発行日: 2018年9月30日

発行: 文化のみち榎木館

指定管理者: 特定非営利活動法人榎木倶楽部

館をかたちどる 建材たち

輸出陶磁器商メーカー「井元商店」の社長「井元為三郎」が大正末期から昭和初期にかけて建てた和洋並置型の私邸「榎木館」は、近代建築に使用された当時の先端材料を使った建物である。



黒漆喰仕上げ(西蔵)



ガラスブロック(西蔵地下室
現在非公開)の明かり取り



太谷石(洋館)



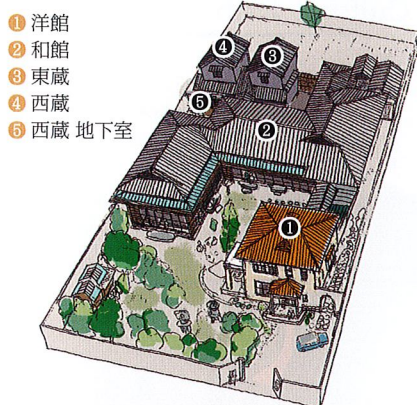
花崗岩(洋館玄関前)

館をかたちどる

建材たち

NPO法人 榎木倶楽部理事 伊藤喜雄

輸出陶磁器商・メーカー「井元商店」の社長「井元為三郎」が大正末期から昭和初期にかけて建てた和洋並置型の私邸「榎木館」は、白壁・主税・榎木町並み保存地区で唯一の名古屋市指定有形文化財に指定された近代建築である。和館・洋館共に木造だが、東蔵（現在非公開）は「煉瓦造」で、和館・洋館が建つ以前の建物と推測され、大正13年には建っていたことが「井元邸配置求積図」に図示されている。東蔵は外壁が黒漆喰仕上げになっていることから外観だけでは煉瓦造とはわからない。西蔵は、昭和8年（1933）に建てられた木造の土蔵で、外壁は「平瓦」を張り黒漆喰仕上げとしている。名古屋は、北西の風（伊吹おろし）が強いことから、敷地の北西に土蔵を建て、火事の延焼防止の防火壁にすることが一般的で、榎木館もそれに倣っている。西蔵には鉄筋コンクリート造（RC造）の地下室が設けられ、土蔵の基礎にもなり、洋館には大谷石や花崗岩も一部に使われる。榎木館は、近代建築に使用された「木・煉瓦・RC・石」の4種の建築構造材料を使った建物になる。



平成20年度の蔵の修理工事
黒漆喰仕上げの下地の煉瓦（東蔵）と平瓦（西蔵）



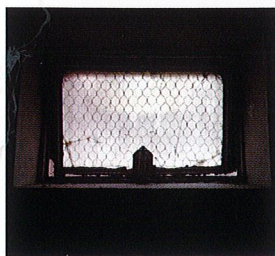
外壁の一部に使用されている
大谷石（洋館）



右：煉瓦造・黒漆喰仕上げ（東蔵）
左：木造・黒漆喰仕上げ（西蔵）

【地下室（現在非公開）の明かり取りのガラスブロック】

RC造の地下室には、型板ガラスに亀甲の網を入れた網入ガラスの明かり取り用の押開窓が西側に三ヶ所開かれている。地下室への採光のため、外部西側の壁下に中空のコンクリート台を造り、上部にガラスブロックを埋め込み押開窓への明かりを取り込んでいる。コンクリート台の横には、長方形の穴を開け外気を取り込む工夫もあり、ガラスブロックと通風口は外から見る事が出来る。榎木館の設計図によれば、押開窓の外側に側溝を作って、雨水が窓から地下室に侵入しない構造にしてある。



押開窓（西蔵地下室）



押開窓 型板ガラス（西蔵地下室）



人造石の犬走（和館）

とされた。人造石は、その堅牢なことから国内の築港や防波堤、堤防、河川の護岸などに昭和初期まで大量に使われ、名古屋港、堀川、黒川などの水門、民家の三和土・石垣の目地など多様に使われ、現在でも残っている。

【人造石（長七三和土・和製セメント）】

和館の「犬走」などに使われる人造石は、元尾張藩士宇都宮三郎（日本初の化学技術者）がセメントの国産化に成功し、セメントの国内量産が出来、流通するまでの間、三河新川（碧南市新川町）の左官服部長七が伝統的な三和土を改良してセメントに劣らない安価な三和土を創り「人造石・長七三和土」と呼ばれた。人造石は、



ガラスブロック（西蔵）

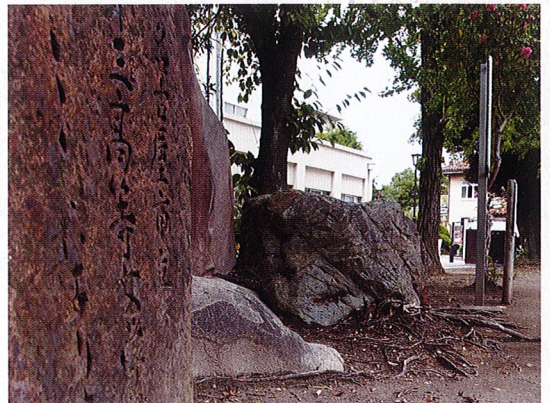
榎木館の外部明かり取りは、側溝の上にガラスブロックをはめ込んだコンクリート板を乗せたものだが、工事中に設計変更があったのだろうか。この構造の明かり取りは、現在ではほとんど見ることが出来る貴重と言える。

参考資料
・名城大学理工学部研究報告「井元家住宅の遺構について」名古屋市の近代建築調査建築科 畔柳武司
・「白壁地区の近代建築」井元為三郎邸と西川秋次邸 瀬口哲夫
・「愛知の近代化遺産 井元家住宅」(愛知県教育委員会)
・豊田市郷土資料館特別展「密から化学技術へ近代技術を開いた男子都三郎」(豊田市教育委員会)
・「名古屋市史 人物編 下巻」(名古屋市政府)
・「名古屋開府四百年」堀川治平誌 末吉順治

市立第三

高等女学校の慰霊碑

市立第二高等小学校の校舎を仮校舎として、大正13年（1924）、市立第三高等女学校を開校した。榎木館前の山吹谷公園の片隅に、校訓碑と「市立第三高等女学校ここにありき」の碑が建ち、裏面に「昭和二十年（1945）一月二十三日の空襲で42人の女学生が亡くなったことが記され、女学生の「慰霊碑」となっている。第三高女も山吹小学校も空襲で焼け落ちたにも関わらず、榎木館は被害を受けずに今に至っているのは奇跡的である。



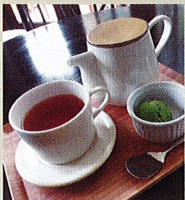
山吹谷公園にある慰霊碑
後ろには現在の山吹小学校、その向かいには榎木館が見られる。

2019年「榎木館」は 開館10周年を迎えます



2009年にオープンした「文化のみち榎木館」は来年開館10周年を迎えます。10周年を記念して1月から1年を通して「大正ロマンから昭和モダンへ」をキーワードに様々な催しを企画し、皆様のお越しをお待ちしています。

SHUMOKUKA CAFE オープンのお知らせ



榎木館の洋館1階（旧応接室）のカフェが、リニューアルオープンいたしました。榎木館の旧応接室をそのまま利用した贅沢な空間で、スリランカで高い評価を得るムレスナ社の紅茶を、ジェラートや洋菓子、パンとともに楽しめるカフェです。店内ではミュージアムグッズの販売も行っています。

※カフェのみをご利用の場合は入館料は必要ありません

定休日：月曜日（祝日の場合は翌平日）
営業時間：午前10時30分～午後5時（ラストオーダー：午後4時30分）
電話番号：080・2137・8449

平成30年度催し物暦（4月～9月）

4/19～5/6

なごや折り紙建築展



6/1～6/3

木匠家ウィーク

NAGOYA・2018



7/15

開館9周年記念
ハル・カルテット
スペシャルコンサート

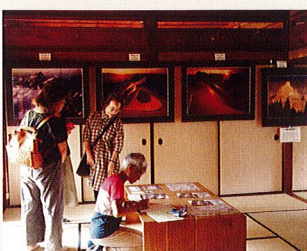


8/4～8/16

愛知 百鬼夜行展
～現代によりみがえり
新たな伝承となれ～



9/7～9/17
「ときめきの稜線歩き」
フォト展



文化のみち榎木館では、館主催イベントをはじめ、貸室利用によるイベントを年間通しておこなっています。当館では和室・洋室・茶室・蔵・庭をお貸しします。詳しくは下記の電話番号、ファックス番号へお問い合わせいただくかホームページをご覧ください。